

# 稲畑産業株式会社 2025年3月期第2四半期決算 オンライン決算説明会 質疑応答要旨

日時 : 2024年12月2日(月) 13:00~14:00

説明者: 稲畑社長

## 【業績】

Q: 25/3期2Q業績が、期初予想を大きく上回った要因は何か。

A (稲畑): 売上高では3%、また各段階の利益では30%~40%程度、期初計画を上回った。

この中には、例えば情報電子事業における金額の大きな機械販売といったスポットビジネスも含まれるが、情報電子事業のプロダクトミックスにおいて、高利益率商材の比率が増えたことが一番の要因だろう。

合成樹脂事業は、売上高の3分の2が海外だが、その中でも東南アジアの比率が高い。東南アジアにおいて、特にOA関連の販売が、去年はメーカーの生産調整に伴う下方修正が相次いだが、今期は大きく回復した。それによる好調が、樹脂の販売だけでなく、特にOA関連の比率の高いベトナム、フィリピンといったコンパウンド拠点の業績向上にも寄与した。この二つが一番大きな要因だろう。

親会社株主に帰属する純利益については、前期にあった一時的な負ののれん発生益が今期はなかった。一方、今期予定していた政策保有株式の売却は、前倒して上期に実施した。これらを通じて、業績が当初の業績予想を大きく上回った。

Q: 25/3期通期の業績予想も上方修正したが、上期の実績と比較すると、下期が物足りなく見える。下期に業績が鈍化する要因はあるのか。

A (稲畑): 前述の通り、上期には一過性の要因もあった。下期については、上期好調の反動という面もあるが、特に情報電子セグメントのフラットパネルディスプレイ関連が、上期は中小型を中心に好調に推移したが、在庫調整が入る見通しである。各大型パネルメーカーともに、10~20%ぐらい稼働を落としていくという情報も入ってきているため、事業環境が少し厳しくなるとみている。

合成樹脂セグメントは、上期はOA関連を中心に非常に好調だったが、OA関連の世界的な需要としては、全体として緩やかに微減方向という予測がある。そのような状況の中で、この上期は前期の反動もあり、やや過剰に生産したのではないかという見方をし

ている。その部分が下期には正常に戻るだろうとみて、下期の計画をやや控えめにみている。加えて、ナフサ価格の緩やかな下落という状況もある。

一方、この中期計画全体の数字は、想定為替レートを 1USD=145 円としているため、現在の為替は多少プラス要因である。

### 【中期経営計画】

Q：上方修正後の 25/3 期業績見通しは、NC2026 の 2 年目（26/3 期）の計画にかなり接近したものとなる。26/3 期および 27/3 期（NC2026 最終年度）目標の引き上げは考えているか。

A（稲畑）：まだ 3 カ年計画の半期が終わったところなので、現在のところは、上方修正した 25/3 期計画を達成することにまず力を注ぎたいと考えている。

先行きについては、ご存じの通り不確定な要素が沢山ある。特に米国の政治や政策の状況については、どちらかという、我々の事業環境に逆風となる可能性もある。一方、例えばメキシコへの関税などを行うことが、どこまで米国国民の利益、好景気に繋がるか、おそらくもう少し冷静に判断すると思われるので、その辺も見極めた上で、来年の通期業績のご報告、大体 5 月頃になると思うが、もし修正するとすればその頃に合わせて検討するため、それまでは情勢を冷静に見極めていきたいと考えている。

Q：NC2026 で注力している環境・エネルギー分野の売上動向について教えてほしい。

A（稲畑）：環境・エネルギー関連の中で、計画通り順調に推移したといえるのは、バイオマス関連である。バイオマスの燃料販売も、大体計画通りに進んでいる。

太陽光発電関連については、安価なパネル流出の影響を受けて、特に欧州勢がかなり苦勞しており、事業環境が悪化している。そのため、欧州向け、また欧州から米国へ生産設備を移転する動きもあるが、まだ大きく数字として表れている状況ではない。ただ、当社の場合、その中でアジア、それからインドに対して、この太陽光発電の材料を今年には順調に販売を増加できた。

一方、リチウムイオン電池関連は、EV の動向と軌を一にするが、EV の環境は昨年からかなり大きくブレーキがかかった状況である。現在の見方では、さらにブレーキがかかるといわれているため、この状況を慎重に見極めていきたいと考えている。

ただし、長期的にみると、やはり全体としては EV 化の流れそのものは止まらないという見方をしているため、実現時期はずれるかもしれないが、将来的には、この分野の需

要は伸びていくという見方は変えていない。

#### 【投融資】

Q：投資の状況を見ると、25/3期上期の投資額がかなり大きいですが、計画通りか。

A（稲畑）：NC2026の3カ年の投資計画について、キャピタルアロケーションを示している。この3カ年で獲得予定の営業キャッシュフロー等として、およそ650億円を想定しており、そのうち50～60%を投資に当てたいということを示している。投資額が3カ年で330～390億円ぐらいの金額になるわけだが、1年当たり大体110～130億円となる。今期は既に100億円程度の成長投資を実施しているが、概ね計画に沿った形で進んでいる。チャンスがある時には、多少上下することはあるが、全体としてはこの計画通りにしていく予定である。

#### 【樹脂コンパウンド投資】

Q：コンパウンド事業会社であるノバセルの新規連結による25/3期上期・通期の売上高と営業利益への影響額を教えてください。ノバセルの中長期的な業績目標は開示できるか。また、コンパウンドの海外生産拠点の新增設計画はあるか。前回の決算説明会では、メキシコでの増設を検討しているということだった。

A（稲畑）：ノバセルの新規連結による状況について、25/3期上期では、利益で数億円程度のプラス影響があった。

中長期的な目標については、開示していない。まだ見直しの余地があるため、精査してから、開示できる場合は追って開示する。

コンパウンドの海外生産拠点の新增設計画について、全体として、確かに稼働率が高い拠点がいくつかある。例えばメキシコでは、自動車の生産は非常に好調で、稼働率が前年比で15%以上上がってきている状況である。ただし、前述のように米国の今後の政治の動きもある。

全体としては、このまま計画通りに進んでいくのであれば、増設は必要となるが、このような状況の不透明さがあるため、もう少し情勢を見極めてから決定したいと考えている。そのため現在のところ、決まっている増設計画はない。